



中河内ブロック 東大阪東支部

(有) カジタニ金属

鍛冶谷 伸司

室町時代から戦国の世まで

今回は、中河内若江の戦国スポット『若江木村通り』をご紹介します。東大阪市若江町(旧若江村)の歴史は古く室町時代に『若江城』が築城され戦国時代には織田信長による石山本願寺攻撃の拠点となりました(和睦後に廃城となる)。また江戸時代初期の1615年(慶長20年)にあった大坂夏の陣において当地を中心に大規模な戦闘が繰り広げられるなど、250年にわたり、乱世の始まりと終わりをみとどけた若江、その史跡を辿ります。

ではまずNHK大河ドラマ「真田丸」でも活躍が描かれた、戦国武将「木村重成」ゆかりの地をご案内します。重成は幼少から豊臣秀頼の小姓として仕え、信頼も厚く元服後は重臣として重要な会議にも出席するようになった秀頼公側近の武将です。「大坂冬の陣」では後藤又兵衛とともに今福砦攻防戦を展開し、数に勝る徳川軍と対等に戦い全国にその名を広めました。その後は真田丸の戦いにも参加しましたが、翌年の「大坂夏の陣」においては豊臣勢主力として長宗我部盛親とともに八尾・若江の戦いに出陣し討ち死にとなりました。

近鉄奈良線の若江岩田駅前より南の商店街通り(通称木村通り)を抜けていくと重成ゆかりの寺「蓮城寺」があります。境内の位牌堂には、美男子として知られた重成の肖像画と位牌が祀られています。重成は戦いの前に死を覚悟し、討ち取られた際も見苦しくないよう、頭髪を清めて香を焚き込めていたそうです。その美しい死に様と覚悟には、家康も心目を震わせたといわれています。

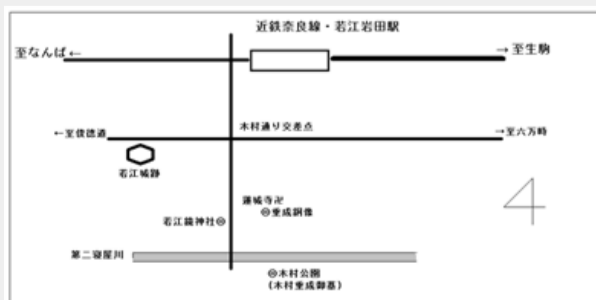
蓮城寺より南の川向の木村公園は、重成が討ち死にした場所とされ現在は御墓が建てられています。毎年命日となる5月5日には地域祭りが開催されています。



畠山氏により築かれた若江城

1382年、後に室町幕府の管領となる畠山基国によって築かれた若江城は、以後、河内国の要衝として度々兵乱の舞台となりました。1573年、織田信長によって京を追放された室町幕府第15代将軍・足利義昭が羽柴秀吉の警固を受けて当地に入城したことで知られています。現在の東大阪市立若江小学校の近くには写真の石碑も建立されていますが、発掘調査の結果、若江城はこの付近一帯に存在したと推定されています。

大坂夏の陣に際して、東西両軍が当地で激しい攻防を繰り広げた背景に、かつての若江城が背負っていた地政学的重要性があったことは十分に考えられます。



現在の若江、激戦地となった川沿いは工場が立ち並び、車の往来も激しい工業地域となっすっかり様変わりしましたが、小径に入り耳を澄ませば、兵どもの雄叫びが聞こえてきそうで戦国時代にタイムスリップしたような風景に出会えます。